

1. 本園の教育目標

- ・明るくのびのびした子どもの育成
- ・自分で考え、自分で実行しようとする子どもの育成
- ・友だちと仲よく遊ぶ子どもの育成
- ・情操豊かな子どもの育成
- ・日常生活の正しい習慣を身につける子どもの育成

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標に沿った評価項目について自己点検・自己評価を実施することによって、教職員が客観的に自らを振り返り、課題と成果の基に教育内容の工夫・改善に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	保育の在り方	教育方針を理解し、教育目標達成のための新たな保育内容や指導計画作成に生かすことができたが、コロナ禍の中、保育内容を変更し限られた保育の中で、豊かな工夫ある計画も必要である事を実感したと共に新しい取り組みも必要である。幼児への対応も個別的及び全体的な指導計画のもと、保育指導プロジェクトチームを発足し、保育の方向性を見出し、子どもに寄り添う保育ができた。
2	教師としての資質や保育の質の向上	園の方針に則り、教職員一同が報告・連絡・相談を徹底し共通理解のもと、保育に係わる知識や技術のための校内研修を重ね、日々の保育の中に反映できた。教師が意欲的に様々な研修に参加し、研修の成果を出そうと努力した。徐々に緩和されているコロナ禍で、コロナ予防に対応できる形を変えた行事計画の立案など教師全員で工夫した計画作りに努力した
3	保護者への対応	徐々に緩和されているコロナ禍で園行事による保護者とのふれあいが出来ない中、年1回の保育参観の実施、園だより、個人教育相談等を積極的に行い、また担任から園の様子を「なかよしレター」や電話などで個々の家庭に伝え、園児の様子や園の保育方針を伝え、保護者との信頼関係を築くことができ、大切さを感じた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

全職員が意見交換を通して確認し、自己点検・自己評価に取り組むことで自らの保育を振り返るばかりではなく、過去の成果と課題を踏まえ新しく改善された保育計画に取り組むことで、さまざまな工夫を施した保育計画の取り組みにより新たな成果と課題を見だし、確認することができた。また、徐々に緩和されているコロナ禍の中での園行事や保育内容の実施方法や活動の工夫など、今年度の経験を活かし例年の園行事や保育内容に近い形を模索することを継続していくことを共通理解した。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育の在り方	本園の教育目標達成のために、一人ひとりの園児性格・発達を十分に理解し、目を向け対応しながら、全体へも視野を広げ集団で行動するそれぞれの在り方を十分に伝え、個々の能力を伸ばすように努める。
2	地域との連携強化	今年度も、コロナ禍で、予定されていた活動等が、中止や縮小になったが、来年度は、コロナが5月8日以降5類になる為、本来の活動を工夫して、地域に愛される園を目指して、地域行事や地域施設との交流と連携により一層の親睦に努める。
3	教職員相互の協力	報告・連絡・相談の重要性を再度認識し、学年に関係なく他学年の指導計画も把握し、教職員間の連携を徹底して取り、協力体制の強化を図る。また、コロナ禍で学んだ、安全な環境作り等共通理解の幅を広げ保育への取り組みを図る。
4	安全管理	地震・火災などの災害に備えて、避難訓練等の実施により危機管理意識の向上を図る。事故・災害発生時の緊急対応図を作成し、迅速な状況対応の構築を図る。来年度は、コロナだけではなく全てのウイルスに対し、衛生管理も重点項目の構築として取り組みを図る。

6. 学校関係者の評価

今年度も、コロナ禍で園行事等の中止や縮小の中、教職員により工夫された熱心な指導のもと、子ども達が園生活をのびのびと自分を出せる環境である様子がうかがえる。幼稚園の教育目標も一人ひとりの子どもを大切に、豊かな心と自主性を育む教育が行われ、子どもを中心に置いた園づくりがなされている様子は好ましく感じている。来年度は、コロナも5類に移行されるので、園行事等も通常に近い実施に向けて工夫をお願いしたい。また、園との繋がりを密に出来る様な行事の実施もお願いしたい。保育の質の向上のため多くの研修を受講し、今後の保育に反映・実践し新しい保育の方法を構築することを願っている。また、保護者へHPの新着情報やメール配信等によって詳細な園の状況をライブで発信することで、園の様子が把握できるが、臨機応変的に配信項目を増やすことも願う。また、コロナ禍で、地域との交流が出来ないが、今後は、コロナも5類に移行されるので、積極的に地域との交流活動に取り組みに努力し欲しい。

7. 財務

公認会計士により適正であると認められている。